

て佛道の之達とて親しくせば法華經の大意此の
意より柔和忍辱を衣として法法の空と空を空とい
ふは此の義なり又法をわけて軌則なり師に近き軌則の
二字の解利と讀む物の格式なり其式獨りまづべしと云
ひて若し人よりて是の如く經法と云ひて近きありと名
法原と傳へ之は有る三種一は受持法師是信力の
故に受けて棄てざる會方なり持して失はざる是如来の
經教深信堅固の之と已に受けて持して不忘也二は
讀經法師是如来經教の文を對して讀むと讀經といふ

は此の端坐して目より其經をみて口より只句讀を唱へ宣ふ
也三は讀誦法師是如来の經教を讀として暗に讀む
を誦といふ既に讀むより事熟して其文を讀むてもよ
く自然に讀むより四は解説法師是如来の聖經義
理實に其甚深なりを曲る時より理隱目して却美を
見解を端心正直として實理分明の解釋一人は訓
へ授くる者是也五は書寫法師是如来の於經無よ
く書寫して字畫分明して脱落訛誤なく悉く傳
へて流布せしむは五種の事能具して世の人の為